



Title: 稲刈りが終わったら本を読む日々

今週の中央図書館は、図書整理期間のため休館しています。正面入口前のブックポストへの返却はできますが、入館や貸出しはできませんのでご注意ください。13日(火)に再開しますので、もう少しお待ち願います。職員一同ちょっとイメージチェンジして皆様をお迎えする予定です。なお休館は中央だけです。花矢・比内・田代の3図書館は通常どおり開館していますので、どうぞよろしく。

❖ 高校生の書評合戦

ひとり5分間で本を紹介し、参加者・来場者がどの本をいちばん読みたくなったかを競うのが、書評合戦「ビブリオバトル」です。去る10月3日(土)、中央図書館において「ビブリオバトル2015秋田県高校生大会大館大会」を行ないました。主催は秋田県教育委員会。昨年から始まったこの大会、地区大会が大館市・美郷町・秋田市の3か所から、今年は能代・由利本荘が加わり5大会に、そして11月1日(日)には県生涯学習課学習センターにおいて初の全県大会も開催されます。

今年の大館大会、私は野暮用が重なり予選の2つの発表しか見られませんでした。でも、その2人とも、きっちり規定の5分間に収めて発表を終えました。中の一人はぴったり残り0秒で終了。びっくりです。どんだけ練習したの？ずっと原稿に目を落としながらというのでもなく、緊張は見えましたがそれでもしっかり自分の感じたことを訴える姿に感心しました。やるなあ、高校生。

昨年は「全国高等学校ビブリオバトル2014東北大会」で国際情報学院高校の菅原和紘君が、泉鏡花『外科室』で準チャンプ本に輝くなど高校生の活躍が目立ちました。大館の高校生にとってのビブリオバトル事始めは中央図書館のイベント。みんなに読んでもらいたいという気持ちが伝わったときの喜びと充実感を求めて、今年も頑張れ高校生。

❖ おおとり号のこと

移動図書館。英語でブックモバイル、略してBM。改造した車体に本を満載して大館市内を走り回るのが、ご存知「おおとり号」ですが、さてここで問題です。秋田県内にBMは何台あるでしょうか？

正解は3台。大館市のほかに、鹿角市の「かづの号」と秋田市の「イソップ号」が運行されています。県内25市町村のうち3市だけなんです。全国では5百数十台が走っています。詳しく調べ終えていないので具体的な数字は挙げられませんが、BMの数は減っていると思われます。一般的に都市部では図書館網の整備によってBMの必要性が低下したために、地方では財源確保が難しくなると理由は様々でしょうが、更新時期を迎えたところで更新せずに廃止する例が多いようです。

人口密度が高く数館で全域をカバーできる都市部の自治体と、面積が広大で幾多の沢沿いに集落が点在する大館市のような自治体では、図書館へのアクセス条件に雲泥の差があります。大館の場合、おおとり号は全域サービスを補完する重要な使命を担っているのです。

ところが、少子高齢化の影響はおおとり号のカバーする地区に、より顕著に現れます。停車して貸出しサービスを行う地点をステーションと呼んでいます。概ね利用者数が減少しているのです。利用者がいる限りステーションは維持する方針ですが、「櫛の歯が欠けるように」という成句が実感される今日この頃です。指定管理者として貸出し冊数の増を求められることと、BMによる全域サービスの理念は、現状では残念ながら両立が難しいことなのです。

それでも指定管理となつてからの過去2年間、担当の努力によってBMの貸出し冊数は前年比アップを続けてきました。それが今年度はかなり厳しい状況です（BMだけの問題ではありませんが）。これからの半年で追い上げられるかどうか分かりませんが、精一杯の努力を重ねていきますので、各ステーションの近くにお住まいの皆さん、おおとり号をどうぞご利用ください。利用カードを持っていない方でも、その場で発行できますから大丈夫です。運行日程は、毎日の北鹿新聞紙上や図書館ホームページで確認できます。電話で図書館に問い合わせいただいても結構です。（陽）